

エアコンのコンプレッサーに搭載される
モータープロテクター市場で
世界シェア70%など、
世界的な開発型メーカーとして
人々の安全を守り続けてきた
株式会社生方製作所。
今年新たに電気自動車（EV）に
内蔵される高電圧直流遮断装置を
世に送り出すなど、
目覚ましい活躍を続ける
代表取締役専務の生方眞之介さん
お話を伺いました。

株式会社生方製作所

代表取締役専務 ▶ UBUKATA SHINOSUKE

生方 眞之介さん

Company Data | 会社概要

株式会社生方製作所

[創業] 1957年
[所在地] 名古屋市南区宝生町4-30
[TEL] 052-612-3333
[URL] <https://www.ubukata.co.jp/>
[事業内容] 感震器、インターナルモータープロテクターなど、
安全を保证する各種デバイスの開発・設計・製造



「安全」に貢献する製品を通して 人々に安心を提供していく



当社の製品群は、「サイレントヒーロー」と名付けた各種のセーフティプロダクツです。主に人の目に触れないところに内蔵され、機器の異常発熱や衝撃などの異常を検出し、爆発などの事故を未然に防ぎます。

安全に関する ニッチな市場を開拓し トップシェア企業へと成長

当社は、昭和32年に生方研究所の名で創業しました。当時名古屋工業大学で講師をしていた祖父が、水銀の性質を利用した液体スイッチに関する研究を続けていく中で、学生2人を引き連れ「大学発ベンチャー」のような形で創業し、その後、地震の揺れを感じしガスを遮断するスイッチ「感震器」を開発して、現在は国内シェア93%を誇るまでに成長しました。創業から一貫している経営理念は、「我々は製品とサービスを通じて社会に安全を供給する」です。なぜなら、人々の「安全」への願いは、国や時代に関わらず不変だからです。あわせて品質に関しては、どこに競争にも負けないと自負しています。製品は全数検査を行ない、品質にプライドを持って出荷しています。当社の技術・開発を支えてきた特長のひとつが、すべての製品を商社を通さず

にメーカーと直接取引している点です。なぜなら、できる限り顧客の声を聞き、常に新たな技術を模索していくためです。その結果として、他社で開発を断られた企業が当社に開発依頼をいただくことが多く、これまでに多くの製品を送り出しています。この難易度の高い製品開発を成功へと導くのが、創業より60年以上かけて蓄えた研究実績と加工技術。その粋を集めたのが、現在世界シェア70%以上を誇る当社の代表製品「モータープロテクター」です。これはエアコンのコンプレッサーに内蔵され、異常電流や発熱を検知し、爆発などの事故を未然に防ぎます。製品の構造原理はシンプルですが加工に繊細な技術を要するため、他社には真似のできない代物です。当社は高い技術力をブランドとして示す目的で、すべての製品にロゴマークを刻印しています。今ではそのロゴにより当社の製品に辿りついたお客様から新たな製品開発のご相談もあり、製品自体が広告塔としての役割も果たしています。

＼ 社名の由来 /



祖父である生方進が、自身の名を取り「生方研究所」として創業したのが始まりです。自社ブランドに強いこだわりがあるため、移転に合わせて新たな組織を設立した際も、生方の名は大切に残り「生方製作所」としています。

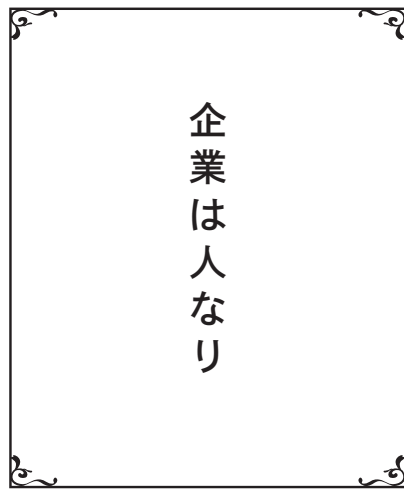
＼ 愛用のアイテム紹介 /

Hender Schemeの名刺入れ



代表取締役専務に就任した際、記念に購入しました。名前の刻印ができること、使い込むほどに風合いが出てくる点を気に入っています。まだ真新しい見た目のため、経年変化していく様子が楽しみです。

＼ 仕事で大切にしていることは /



経営の神様と言われた松下幸之助氏の格言です。人に依存しないよう機械化などを推進することも重要ですが、その機械や仕組みをつくるのも人だと考えているからです。そのため、従業員と強固な信頼関係を構築することを大切にしています。



従業員との関わり

当社の画期的な製品を生み出しているのは、紛れもなく「人」です。そのため人材の採用・教育を最重要業務と捉え、面接には専務の私が初回から参加し、採用後は頻繁に面談の機会を設けています。



pioma (ピオマ)

数々の「安全」に関する製品を生み出してきた当社のBtoC商品ブランド。感震器の技術を応用した「ここだよライト」や「感震ブレーカー」などの製品のほか、『pioma+ (ピオマプラス)』として、当社の女性防災士が品質にこだわり企画した防災セットブランドを立ち上げました。



Forbes JAPANよりグランプリ受賞

第5回「スモール・ジャイアンツ アワード」で、グランプリを受賞しました。これは、企業規模は小さくとも独自の技術やアイデアで世界規模の活躍をする企業に贈られる賞のため、非常に名誉で嬉しく感じています。



高電圧・大電流用直流遮断装置

2020年に開発に成功した新製品。EVの水加熱ヒーターに組み込まれ、万が一電気系統が破損しても自動車の安全性を保ちます。大手メーカーでも完成には至らず競合がないため、今後世界のシェア獲得が見込める製品です。

「安全」を共通点に
新製品の開発に成功



開発における
現物主義の企業風土が
新たな事業の柱をつくる

すでに世界トップシェアの製品を持つ当社ですが、2020年再び世界シェアを狙える製品が誕生しました。それは電気自動車（EV）に搭載される「直流遮断装置」です。これは、EVの暖房用ヒーターにおける熱暴走が起った場合、回路を遮断し、過熱・発火を防ぐ製品です。

開発のきっかけは、8年前にEV向けの直流遮断装置をつくれなにかとの相談を受けたことに起因します。装置の構造については他社も思いつくのですが、どこも必要な機能を満たせず当社に白羽の矢が立ちました。当時、同様に開発に挑むメーカーは大手も含め数社ありましたが、最終的に成功したのは当社のみでした。完成にこぎ付けられたのは、開発における徹底した現物主義の姿勢があったからです。

実は、この成功品は試作を繰り返す中で生まれた偶然的産物です。装置としての理論は後から大学に実証してもらいました。そして、今年ついに当社が開発した直流遮断器を搭載した、EVの市場投入が始まります。EVの販売台数は世界的に右肩上がりですから、市場の拡大にあわせて生産数も増大していくことを期待しています。

また最近では、B to C 事業の拡大を

図るために家庭用防災グッズ事業として『pioma+』を立ち上げました。当社の代表製品「感震器」の技術を応用した「ここだよライト」や「感震ブレーカー」などを15年ほど前から『pioma』ブランドとして販売してきましたが、さらに非常食や衛生用品など高品質で本場に役立つ商品をひとつにまとめ、パッケージ化しました。「安全」を供給する当社としての使命感により企画に乗り出し、ECサイトなども含めてわずか1年で市場投入しています。当商品は並べ名商のメッセナゴヤに出展した際は非常に多くの企業から興味を持っていただけたため、piomaが当社を知るきっかけの一助となっています。

これらの積極的なチャレンジと成功の裏には、弟である取締役の生方将と共に兄弟2人で経営に携わっている点が大いに関係しています。私は2017年に当社に入社し、社外で働いた経験が長いため、従業員サイドの心情が理解できます。そして、弟が営業として外向きの業務を担当してくれている絶妙なコンビネーションのおかげで、私は社内全体のマネジメントに注力することができています。

当社の従業員は、バイタリティーあふれる優秀な人材ばかりです。そのため、従業員と経営陣が近い距離でフラットな人間関係を構築し、ともに明るい会社のビジョンを描き、達成していくことこそ、成長への近道だと考え、行動しています。

従業員の活躍と
たゆまぬ改善の先に、
業績拡大の未来がある

当社の製品力を支える従業員数は全員で200名程度と少数精鋭ですが、今後もこの規模で成長していきたいです。なぜなら現在の規模感が、全従業員の顔や名前、趣味などを把握し信頼関係を構築できる、最適な人数だと考えるからです。

今後は、サイレントヒーローとして世の中に「安全」を供給していくなかで、事業領域が拡大することを期待しています。またグローバルニッチ企業として競合他社がない市場を主戦場とし、お客様の課題解決を行ない、たゆまぬ改善を続けることが結果的に当社の成長につながると思っています。当社の歴史で売上が100億円を突破したことはないため、私の代で達成できる日を夢見ています。